

第4章

運航(船内及び訪問国活動)



1 運航日程・航路図

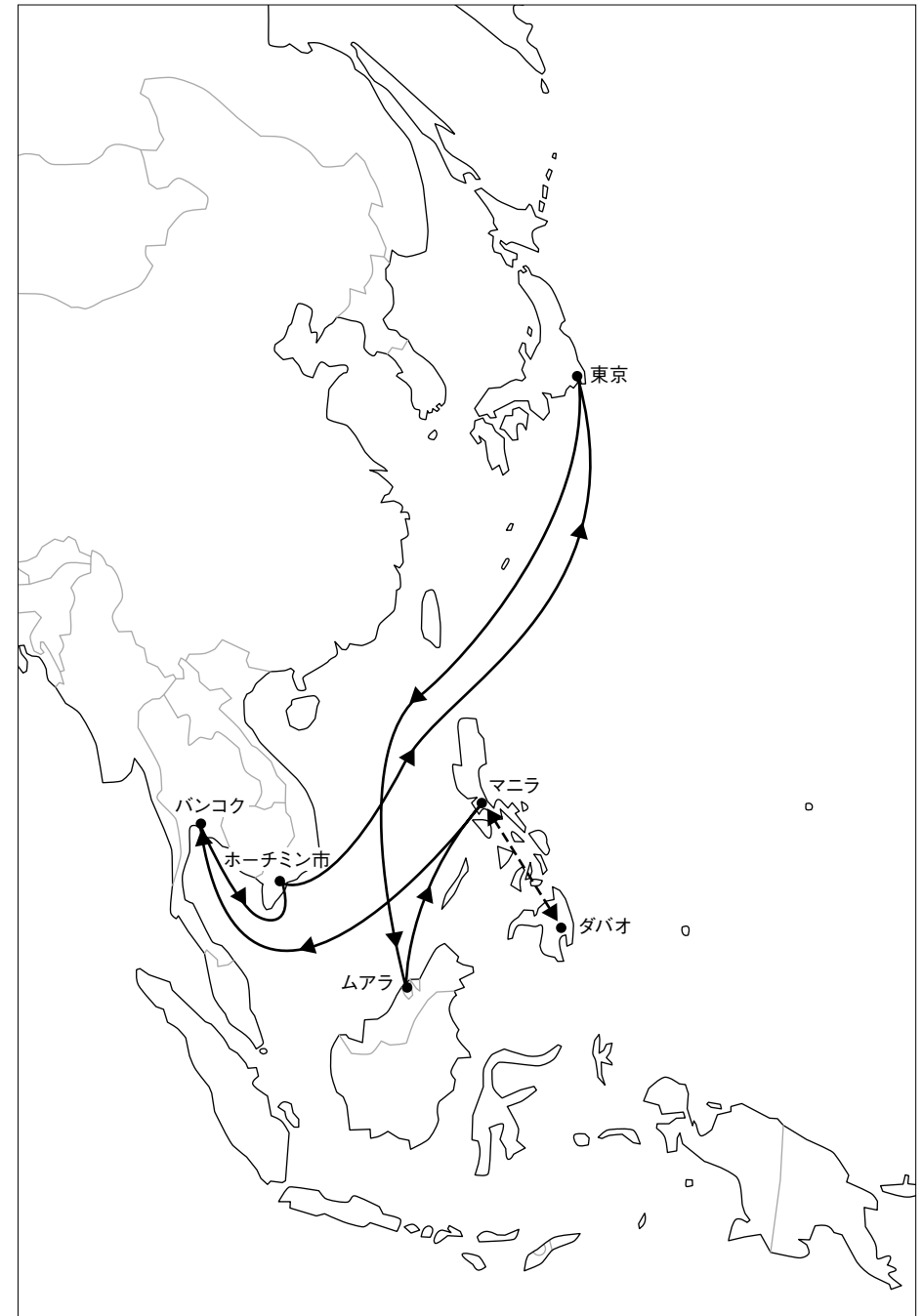
(1) 運航日程

	入港	出港
東京（日本）		11月2日
ムアラ（ブルネイ）	11月10日	11月13日
マニラ（フィリピン）	11月17日	11月20日
バンコク（タイ）	11月24日	11月27日
ホーチミン市（ベトナム）	12月2日	12月5日
東京（日本）	12月12日	

(注)

- ASEAN各国のナショナル・リーダー（NL）及び参加青年（PY）は10月23日に来日し、翌24日に日本NL及びPYと合流、日本国内活動の後、11月1日に乗船。
- ファシリテーターは、10月28日に来日、12月5日にホーチミン市（ベトナム）にて下船、帰国。
- マニラ（フィリピン）寄港中、代表団が航空機でダバオを訪問。（11月18日～19日）
- ASEAN各国NL及びPYは12月13日に下船、帰国。
- 日本NL及びPYは12月13日に下船、帰国後研修後、12月14日に解散。
- 事後活動組織代表者は12月3日にホーチミン市（ベトナム）に参集し、船内及び日本での活動後、12月15日に帰国。

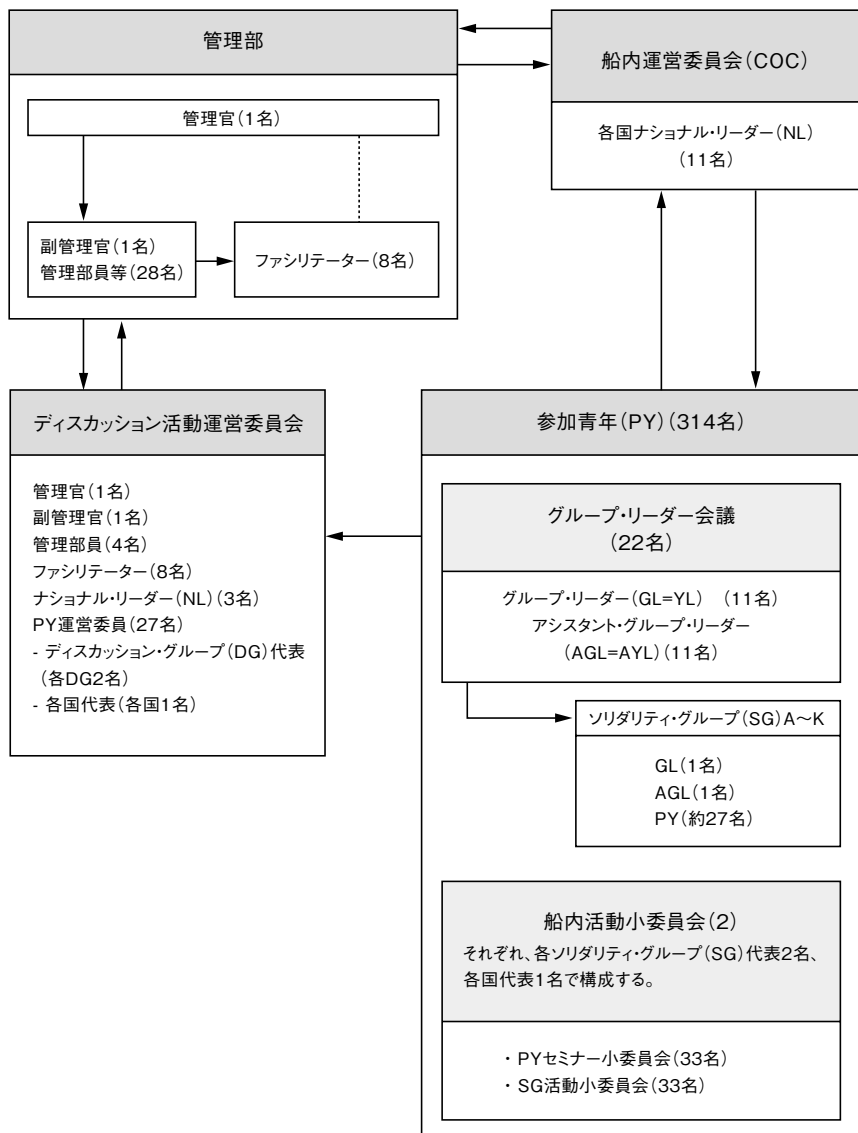
(2) 航路図



2 船内組織

(1) 船内組織図

平成30年度「東南アジア青年の船」事業（第45回）の船内組織は、次のとおりである。



(2) 船内運営委員会 (COC)

COCは、NL11名をもって構成し、船内における生活基準、船内活動等の基本的事項について、協議して決定する。また、グループ・リーダー会議、ディスカッショ

ン活動運営委員会、各船内活動小委員会及びPYに対し、指導及び助言を行う。

なお、管理官は、COCに対し必要に応じて指導及び助言を行うことができる。

[NL名簿]

国名	氏名	性別	担当会議・小委員会
日本		女	ディスカッション活動運営委員会
ブルネイ		男	グループ・リーダー会議
フィリピン		男	PYセミナー小委員会
タイ		女	SG活動小委員会
ベトナム		男	PYセミナー小委員会
カンボジア		男	SG活動小委員会
インドネシア		女	グループ・リーダー会議
ラオス		女	SG活動小委員会
マレーシア		女	PYセミナー小委員会
ミャンマー		女	ディスカッション活動運営委員会
シンガポール		男	ディスカッション活動運営委員会

(3) ソリダリティ・グループ (SG)

船内及び訪問国における活動の基礎単位として、各国PYほぼ同数の男女から成る約29名ずつのグループを組織した。これをソリダリティ・グループ (SG) と呼び、SG-AからSG-Kまで計11グループに編成した。

各SGには、それぞれグループ・リーダー (GL) 及びアシスタント・グループ・リーダー (AGL) を置き、彼らがグループを統率した。GL及びAGLには、各国のユース・リーダー (YL) 及びアシスタント・ユース・リーダー (AYL) を充て、かつ、同国のYLとAYLが同じSGに割り当てられないよう配慮して編成した。

また、各種活動・情報伝達を円滑に行うために、船内

では、なるべく同じSGのメンバーが同室となるよう考慮した。

(4) グループ・リーダー会議 (GLミーティング)

グループ・リーダー会議は、それぞれ11名のGL及びAGLにより構成し、NL2名(ブルネイ、インドネシア)を顧問とし、必要に応じて船内活動等について協議し、COC等に対して意見を述べた。また、COC又は管理部からのPYに対する連絡事項の伝達やSG間の調整を行った。

PYから提案された様々な自主活動の企画については、必要に応じてグループ・リーダー会議を通して検討・調整し、実施した。

[GL・AGL名簿]

SG	GL氏名	性別	国名	AGL氏名	性別	国名
A		男	シンガポール		女	ラオス
B		男	インドネシア		女	タイ
C		男	日本		女	ベトナム
D		男	ブルネイ		女	日本
E		男	マレーシア		女	ブルネイ

F		男	フィリピン		女	マレーシア
G		男	ラオス		男	カンボジア
H		男	ミャンマー		女	シンガポール
I		男	ベトナム		女	インドネシア
J		男	タイ		女	フィリピン
K		女	カンボジア		女	ミャンマー

(5) ディスカッション活動運営委員会

ディスカッション活動運営委員会は、ディスカッション活動の適切な運営を図るため、管理官、副管理官、管理部員（4名）、ファシリテーター（8名）、NL（3名）、

PY運営委員（27名）をもって構成した。

ファシリテーターは、管理官の命を受けて、本事業に係る事務のうちディスカッションに関するものを処理した。

【ディスカッション活動運営委員会名簿】 *国名に下線付きは国代表PY

	ディスカッション・グループ	氏名	性別	国名
管理官			男	
副管理官			男	
管理部員			男	
			女	
			女	
			女	
ファシリテーター	グローバル化の功罪		男	英国
	情報とメディア		女	タイ
	国際関係（日・ASEAN協力）		男	インドネシア
	長寿社会を生きる		男	オーストラリア
	質の高い教育		女	日本
	レジリエントで持続可能な都市づくり		男	インドネシア
	ソフト・パワーと青年の民間外交		男	フィリピン
	手頃で信頼でき持続可能なエネルギーの利用		男	ブルネイ
NL			女	日本
			女	ミャンマー
			男	シンガポール

	ディスカッション・グループ	氏名	性別	国名
PY運営委員	グローバル化の功罪		男	日本
			女	ブルネイ
			女	ベトナム
			男	カンボジア
	情報とメディア		男	フィリピン
			女	カンボジア
			男	ラオス
	国際関係（日・ASEAN協力）		男	タイ
			女	カンボジア
			女	マレーシア
			女	シンガポール
	長寿社会を生きる		男	ブルネイ
			女	ラオス
	質の高い教育		男	ブルネイ
			女	ベトナム
			男	インドネシア
	レジリエントで持続可能な都市づくり		男	フィリピン
			男	カンボジア
			男	インドネシア
	ソフト・パワーと青年の民間外交		男	タイ
			男	カンボジア
			女	カンボジア
			女	インドネシア
	手頃で信頼でき持続可能なエネルギーの利用		男	ベトナム
			女	ベトナム
			女	ラオス
			男	ミャンマー

(6) 船内活動小委員会

船内活動小委員会はPYで構成し、NLを顧問とし、各船内活動の実施の細目について協議して決定する機関である。

PYセミナー及びSG活動の各小委員会は、各SG代表

2名、各国代表1名で構成し、それぞれ計33名で構成した。PYセミナー小委員会の顧問をフィリピン、ベトナム、マレーシアのNL3名が、SG活動小委員会の顧問をタイ、カンボジア、ラオスのNL3名が、それぞれ務めた。

【PY セミナー小委員会名簿】 *国名に下線付きは国代表

SG	氏名	性別	国名
A		男	ブルネイ
		男	ラオス
B		男	日本
		女	ラオス
C		男	日本
		女	タイ
		女	<u>カンボジア</u>
		男	<u>ラオス</u>
		女	<u>マレーシア</u>
	男	<u>シンガポール</u>	
D		男	タイ
		女	ラオス
E		男	日本
		男	カンボジア
		女	インドネシア
F		男	タイ
		男	<u>インドネシア</u>
		女	インドネシア
G		女	<u>ブルネイ</u>
		女	タイ
		女	ラオス
		男	<u>ミャンマー</u>
H		男	フィリピン
		女	カンボジア
I		女	タイ
		女	カンボジア
J		女	ブルネイ
		女	シンガポール
K		女	ブルネイ
		男	<u>フィリピン</u>
		女	<u>タイ</u>
		男	<u>ベトナム</u>
		男	マレーシア

【SG 活動小委員会名簿】 *国名に下線付きは国代表 PY

SG	氏名	性別	国名
A		男	タイ
		男	<u>ベトナム</u>
		男	インドネシア
		女	<u>インドネシア</u>
		男	<u>マレーシア</u>
B		男	ベトナム
		女	インドネシア
C		男	タイ
		男	インドネシア
		女	<u>ミャンマー</u>
D		女	<u>日本</u>
		女	ラオス
		女	シンガポール
E		女	日本
		男	<u>カンボジア</u>
		男	マレーシア
F		女	タイ
		女	ベトナム
G		男	ベトナム
		女	マレーシア
H		男	日本
		男	<u>ブルネイ</u>
		男	ベトナム
I		女	<u>シンガポール</u>
		男	日本
		男	<u>フィリピン</u>
J		女	フィリピン
		女	<u>ラオス</u>
		男	カンボジア
K		男	インドネシア
		女	<u>タイ</u>
		女	ベトナム
K		男	インドネシア

3 船内運営委員会（COC）

COCにおける協議事項は、次のとおり、生活規律・船内活動・訪問国活動など、広範多岐にわたった。

第1回COCはNL会議の際に東京で、第2回以降は基本的に各訪問国活動最終日の出港後に開催した。

第1回COCの際に協議・決定した事項のうち、PYに周知・徹底すべきものについては「プログラム・ファイル」にまとめ、全参加者に配付した。

また、船内におけるPYへの連絡事項については、モーニング・アセンブリー、国別ミーティングや船内所定の掲示板を利用した。

【COC協議事項】

第1回（9月20日、内閣府）

「第2章6. ナショナル・リーダー会議」を参照。

第2回（11月2日、船内COCルーム）

1. 日本国内活動の振り返り
2. 船内活動及び船内生活について

4 船内活動

(1) 船内生活

① 船内生活時間

航海中の船内生活時間は、訪問国における活動を除き、次のとおりである。

時間	活動内容
7:00	起床（モーニングコール）
7:30- 8:00	運動
8:00- 9:00	朝食
9:15- 9:45	モーニング・アセンブリー
10:00-12:45	活動
12:45-14:15	昼食
14:15-17:00	活動
17:00-18:00	自由
18:00-19:30	夕食
19:30-20:45	活動
20:45-23:00	自由
23:00	消灯（ナイトコール） ナイトパトロール

② 船内生活のあらまし

● モーニングコール、ナイトコール

モーニングコールは、毎朝7時に、PYが当番制（SG持ち回り）で、船内放送を使用して起床の呼びかけや音

第3回（11月13日、船内COCルーム）

1. ブルネイにおける訪問国活動の振り返り
2. 船内活動及び船内生活について

第4回（11月20日、船内COCルーム）

1. フィリピン（マニラ及びダバオ）における訪問国活動の振り返り
2. 船内活動及び船内生活について

第5回（11月27日、船内COCルーム）

1. タイにおける訪問国活動の振り返り
2. 船内活動及び船内生活について

第6回（12月6日、船内COCルーム）

1. ベトナムにおける訪問国活動の振り返り
2. 船内活動及び船内生活について

楽を流す等、趣向を凝らして行った。

また、ナイトコールは、毎晩23時に、モーニングコールを担当したSGが同様にいった。

● 運動

毎朝7時30分から8時まで、ドルフィンホール又はスポーツデッキで、PYが当番制（SG持ち回り）で実施し、内容は音楽を使った体操やダンス等多彩であった。運動への参加は任意とした。

● モーニング・アセンブリー

毎朝9時15分から9時45分まで、ドルフィンホールにおいて、SG毎に整列し点呼及び健康確認を行い、その後、当番のNLが当日のスケジュール確認や連絡事項の伝達を行った。

● 活動

午前、午後及び夜の3つの活動時間帯に分けて行った（詳細は後述）。

午前及び午後の活動としては、ディスカッション活動、PYセミナー及びSG活動等を、夜の活動としてはナショナル・プレゼンテーション（NP）や自主活動を、それぞれ実施した。

● ナイトパトロール

ナイトコール終了後、NLが当番制で、船内各所を見回り、異常の有無を確認し、船内の安全確保に努めた。

(2) 船内活動構成

船内活動	時限	活動内容
ディスカッション活動 ・ 導入プログラム ・ グループ・ディスカッション ・ 事後活動の企画・実践への導入 ・ 事後活動の企画・実践に向けたワークショップ ・ まとめ ・ 成果報告会準備・DG毎のレポート作成 ・ 成果発表会 ・ 自己評価	26 (2) (10) (2) (2) (2) (2) (4) (2)	共通テーマ「青年の社会活動への参加」の下、8つの異なるテーマが設定され、ファンリターターの指導によりディスカッションを行った
事後活動セッション	4	SSEAYPインターナショナルと各国事後活動組織についての説明及び事業終了後に行う社会貢献活動案の企画
PYセミナー ・ PYセミナー活動紹介 ・ PYセミナー	10 (2) (8)	PYセミナー小委員会が調整役となり、PYがこれまで勉強してきたこと又は経験してきたこと等について比較的少人数の仲間と共有又は議論する活動
SG活動	6	SG活動小委員会が調整役となり、各SGにおける参加青年相互の理解と友情を深めるための活動
各国紹介 (ナショナル・プレゼンテーション)	11	文化・伝統・歴史・国民性・現在の青年を取り巻く環境等を国ごとに紹介する活動
講話 ・ 管理官講話 ・ 船長講話	2 (1) (1)	管理官による講話 船長による航海経験等に関する講話
フリーデイ	14	公式な活動を行わず、体調管理や、自発的に自由に参加者同士の交流を深めるための時間
自主活動	12	明確な目標・目的を持った各種イベントやセミナーなどをPYが自由に企画・運営する活動
委員会	7	GLミーティング、ディスカッション活動運営委員会、船内活動小委員会、プレス担当者連絡会
国別ミーティング	6	船内活動及び訪問国活動の振り返り等
訪問国活動振り返り	4	訪問国活動における経験の共有と振り返りをSGごとに行う活動
管理部によるオリエンテーション	1	船内活動、カウンター受付、物品貸出、活動場所予約などの説明
海事・通関関係 ・ 船側オリエンテーション・避難訓練 ・ 船内見学・写真撮影 ・ 下船手続き説明 ・ 荷物移動	8 (1) (2) (1) (4)	船内設備説明・非常時を想定した避難訓練等 操舵室の見学、報告書用の写真撮影 入国・下船手続き、通関などの説明 荷物の移動、清掃等
フェアウェル・フェスティバル準備	1	
フェアウェル・フェスティバル	1	GLミーティングによる企画・運営のお別れ会
帰国報告会準備	1	
帰国報告会	1	国ごとの事後活動案の発表及び管理官による報告
解散式	1	NL及びPYへの参加証の授与
合計	116	

注「時限」の一部は四捨五入している場合がある。

(3) 船内活動実績

月 日	10:00～11:15	11:30～12:45	14:15～15:30	15:45～17:00	19:30～20:45
11月 1日(木)	乗船				荷物移動
2日(金)	避難訓練	出国手続	船内公開	出航式	国別ミーティング COCミーティング 自主活動
3日(土)	管理部オリエンテーション	GLミーティング/ディスカッション活動運営委員会/船内活動小委員会/プレス担当者連絡会			自主活動
4日(日)	GLミーティング/ディスカッション活動運営委員会/船内活動小委員会/プレス担当者連絡会		写真撮影/船内見学 (SG毎)		自主活動
5日(月)	管理官講話	船長講話	ディスカッション活動 (導入プログラム)		自主活動
6日(火)	フリーデー (半日)		ディスカッション活動 (グループ・ディスカッションI)		ナショナル・プレゼンテーション (日本)
7日(水)	ディスカッション活動 (グループ・ディスカッションII)		SG活動 I		ナショナル・プレゼンテーション (カンボジア)
8日(木)	ディスカッション活動 (グループ・ディスカッションIII)		自主活動		ナショナル・プレゼンテーション (インドネシア)
9日(金)	ディスカッション活動 (グループ・ディスカッションIV)		PYセミナー活動紹介		ナショナル・プレゼンテーション (ブルネイ)
10日(土) 11日(日) 12日(月)	ブルネイ訪問国活動				
13日(火)				国別ミーティング	COCミーティング 自主活動
14日(水)	フリーデー (半日)		訪問国活動振り返り<SG毎> I		自主活動
15日(木)	ディスカッション活動 (グループ・ディスカッションV)		SG活動 II		ナショナル・プレゼンテーション (ラオス)
16日(金)	ディスカッション活動 (事後活動の企画・実践への導入)		ディスカッション活動 (事後活動の企画・実践に向けたワークショップ)		ナショナル・プレゼンテーション (フィリピン)
17日(土) 18日(日) 19日(月)	フィリピン訪問国活動 (マニラ) 代表団によるフィリピン訪問国活動 (ダバオ) (11月18日(日)～19日(月))				
20日(火)				国別ミーティング	COCミーティング 自主活動
21日(水)	フリーデー				自主活動
22日(木)	ディスカッション活動 (まとめ)	GLミーティング/ディスカッション活動運営委員会/船内活動小委員会/プレス担当者連絡会			ナショナル・プレゼンテーション (マレーシア)
23日(金)	ディスカッション活動 (成果発表会の準備・DG毎のレポート作成)	PYセミナー(1)	PYセミナー(2)	ナショナル・プレゼンテーション (タイ)	
24日(土) 25日(日) 26日(月)	タイ訪問国活動				
27日(火)				国別ミーティング	COCミーティング 自主活動
28日(水)	フリーデー (半日)		PYセミナー(3)	PYセミナー(4)	自主活動
29日(木)	ディスカッション活動 (成果発表会)				ナショナル・プレゼンテーション (ミャンマー)
30日(金)	ディスカッション活動 (自己評価)	訪問国活動振り返り<SG毎> II		ナショナル・プレゼンテーション (シンガポール)	
12月 1日(土)	SG活動III	PYセミナー(5)	PYセミナー(6)		
2日(日) 3日(月) 4日(火) 5日(水)	ベトナム訪問国活動				国別ミーティング

月 日	10:00～11:15	11:30～12:45	14:15～15:30	15:45～17:00	19:30～20:45
6日(木)	フリーデー				COCミーティング
7日(金)					
8日(土)	事後活動セッションI (国別・各国の事後活動紹介)		PYセミナー(7)	PYセミナー(8)	自主活動
9日(日)					
10日(月)	事後活動セッションII (国別プロジェクト案完成・帰国報告会準備)		フェアウェル フェスティバル準備	ナショナル・プレゼンテーション (ベトナム)	フェアウェル フェスティバル
11日(火)	下船手続説明	国別ミーティング	荷物移動		
12日(水)	入国手続・荷物審査		帰国報告会準備	帰国報告会	解散式
13日(木)	下船				

(4) ディスカッション活動・事後活動セッション

ディスカッション活動は、異なる背景を持つ各国PYが自由に意見交換を行うことによって相互理解を深めるとともに、集団の中での意見のやり取りをする能力の向上及び人前でのプレゼンテーション能力の向上を図ることを目的とした活動である。

事後活動セッションは、ディスカッション活動の成果を活かし、事後活動への積極的な参加の促進、事後活動組織のネットワーク強化等を目的として実施した。

詳しくは、第5章「ディスカッション活動・事後活動セッション」を参照。

(5) PYセミナー

PYセミナーは、PYがこれまで勉強してきたこと又は経験してきたこと等について比較的少人数の仲間と共有又は議論する活動として、次のことを目的として実施した。

【参加者】

- ・ PYがこれまで勉強してきたこと又は経験してきたこと等を仲間と共有することによりお互いのバックグラウンドをより深く知ること。

【主催者】

- ・ 自らの考えや経験等を仲間伝えることによりプレゼンテーション能力を高めること。
- ・ セミナーの企画・立案から実施までの一連のプロセスを

経験することによりプロジェクトの遂行能力を高めること。また、PYセミナーの運営は、担当顧問であるNL3名（フィリピン、ベトナム、マレーシア）の指導の下、PYセミナー小委員会が次の方針に沿って行った。

- ・ セミナーのテーマは「社会をより良くするための取組」を基本とし、知的な学びがある内容とすること。ただし、「東南アジア青年の船」事業の目的に沿った内容であれば、テーマは限定されない。
- ・ セミナーの内容は、PYがこれまでに取り組んできた、また現在取り組んでいる研究や活動から得られた経験や知識のほか、PYの自国の活動報告で各国と共有する価値があるようなものでも良い。
- ・ 各セミナーは、PY個人又は数名のグループで協力して運営する。
- ・ PYセミナーの手法として、講義方式、ワークショップ方式、ディスカッション方式、その他、セミナーのテーマに適した効果的な方法で実施する。
- ・ 原則として、一つのPYセミナーは、1セッション（75分）又は連続した2セッション（75分×2）で実施する。まず、11月9日に、PYセミナーを主催するPYが全PYに対して、各PYセミナーの活動内容を紹介した。PYは、PYセミナー8セッションの全てに、主催者又は参加者として、それぞれ一つずつのPYセミナーに参加した。開催されたPYセミナーは別表のとおりである。



【S4】ベトナムによるセミナー「ベトナムの伝統手工芸品における竹」



【S20】ラオスによるセミナー「チャンパーで魅力的な自分」

PYセミナー一覧

セミナーID	国	セミナーの題名	主催者	セミナーの目標
S1	ブルネイ	もうブルネイが恋しい？		ブルネイの訪問国活動での素晴らしい体験を思い出してもらおう。衣装や伝統的なゲームを通して、ブルネイの文化や独自性を共有する。
S2	ベトナム 日本 インドネシア	病気よ、さよなら		<ul style="list-style-type: none"> ・プロバイオティクス製品についての知識を得る ・伝統飲料や治療薬について知ることにより、身体の健康についての理解を深める ・インフルエンザについて、またその予防方法について伝える
S3	フィリピン	「パロル（クリスマス・ランタン）」フィリピン・クリスマスのシンボル		参加者がフィリピンのクリスマス文化を知り、自分でパロル（クリスマス・ランタン）を作る。
S4	ベトナム	ベトナムの伝統手工芸品における竹		<ul style="list-style-type: none"> ・ベトナムの伝統手工芸品を紹介する ・ASEAN各国の伝統手工芸品から、文化の多様性を学ぶ
S5	インドネシア	ジョグジャカルタ王宮「クラトン」一日体験		<ul style="list-style-type: none"> ・王宮における王族の生活、ふるまいなどを体験する ・相互理解
S6	シンガポール	私たちの消えゆく文化遺産をよみがえらせよう		セミナーを通して、消えゆく文化遺産についての意識を高め、青年たちがその文化を回復させるための重要な役割をどのように果たしていくのかを共有する。
S7	カンボジア	カンボジア武術ポックカオ		<ul style="list-style-type: none"> ・カンボジア武術についての詳細を学ぶ ・PYに自己防衛の技術を教える
S8	ベトナム フィリピン	自分の命は自分で守れる(応急手当の技術)		応急手当の基礎知識、特に窒息症状について教える。

セミナー主催者として、この経験から何を学んだか	セミナー参加者は何を学ぶことができたか	セミナーの目標は達成できたか
ブルネイの文化を他のPYと共有し、また、船内でセミナーを運営するためにチームとして一緒に活動する素晴らしい機会となった。	ブルネイの伝統衣装を実際に着用することで、ブルネイの文化についての見識を深め、また、「カキ・ティガ」と呼ばれるブルネイの伝統ゲームを楽しんだ。	達成できた。全員が出席し、セミナーはスムーズに進行した。参加者はブルネイの伝統衣装を自分で着られるようになり、皆が伝統ゲームを楽しんだ。
<ul style="list-style-type: none"> ・伝え、表現する技術を学んだ ・人前で話すことについて学んだ ・プレゼンテーション・スキルについて学んだ 	<ul style="list-style-type: none"> ・プロバイオティクス製品についての基礎的な理解を得た ・数種類のインドネシアの飲料や治療薬を摂取する経験ができた ・インフルエンザや予防についての一般的な情報を得た 	達成できたが、もっと交流型の活動を取り入れ、インフルエンザについての事実をより多く伝えることができると良かった。
主催者は幸せな気持ちになった。また、クリスマスの芸術及び他のPYの考えを理解することができた。	パロルの作成を通じて達成感を得た。また、協調性を育むことができた。	達成できた。参加者はパロル作りを楽しんだだけでなく、歌を通してクリスマス精神を感じ、なぜパロルがクリスマスのシンボルであるかを理解した。また、それぞれ自分の独自のパロルを作ることができた。
<ul style="list-style-type: none"> ・イベント運営スキル ・リドテラスが非常に暑かったので、場所に応じてセミナーの内容を調整する工夫をした 	<ul style="list-style-type: none"> ・ASEAN各国は、手工芸品においては非常に多くの類似点があるということを知った。 ・ベトナムの伝統手工芸品の種類を学んだ。 	達成できたが、リドテラスの冷房を直すのに非常に多くの時間を費やし、準備したすべての内容を実施できなかった。
<ul style="list-style-type: none"> ・様々な国々からの参加者を対象としたプログラムの企画の仕方 ・文化を共有しともに学ぶということ 	ジョグジャカルタ王宮「クラトン」でどのように人々が生活していたのか、実際の体験を感じ、理解する。	達成できた。すべてのセッションが終わった後の質問に、参加者は答えることができた。また、活動内容について、参加者から好評を得た。
消えゆく文化遺産はASEAN各国と日本の共通の課題であるということを知った。	シンガポールにおける消えゆく文化について知り、青年が率先していかに文化を守っていくのかを学んだ。	達成できた。参加者から多くのフィードバックがあり、このセミナーが現実問題と直結しており消えゆく文化について彼らの意識を高めるのに役立ったことが分かった。
<ul style="list-style-type: none"> ・グループをどのようにコントロールするか ・プランニングペーパーをどのように準備するか ・良いリーダーとなり、柔軟に対応する方法 ・「仕事」という言葉のもつ本当の意味についての理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己防衛の技術を学んだ ・カンボジア武術についてよく理解できた ・カンボジアの歴史についての理解を深めた 	達成できた。セミナーはスムーズに進行し、全員が本当に楽しんでいた。武術の練習の際も、プレゼンテーションの際も、非常に興味をもってくれた。
運営の仕方や、異なる国々のPYと活動する方法を学んだ。	窒息症状に対する基礎知識	達成できた。このセミナーを通して、最も基礎的な技術をPYは得ることができたと思う。

セミナーID	国	セミナーの題名	主催者	セミナーの目標
S9	シンガポール	起業や社会事業を通じ、社会的な力をつけ、それを還元しよう		<ul style="list-style-type: none"> 人生経験による個人の価値感についてじっくり考える よりインパクトのある社会事業プロジェクトを作る方法を学ぶ
S10	日本	書道		PYに日本の書道を教える。
S11	ラオス	ジムに行かなくても体重は増えない、問題ない		<ul style="list-style-type: none"> 自分の代謝を知る ジムに行かずに消費することを知る 個人の戦略とヒントを共有する 運動とトレーニングを実践する
S12	ミャンマー	チンロン(ミャンマーの伝統的なスポーツ)のチームスピリット		<ul style="list-style-type: none"> ミャンマーの国技チンロンの紹介 チンロンの基本ルールの共有と説明 ミャンマーの伝統に関するPYの知識を広める
S13	フィリピン	開発とジェンダー		<p>セミナー終了時に、</p> <ul style="list-style-type: none"> 性とジェンダーの基本概念を知っている 開発の阻害要因となりかねないジェンダーバイアスを認識し、現実的な観点としての開発とジェンダーについて理解できる 制度上の政策やプログラム・活動におけるジェンダーの展望を統合するための戦略として、男女平等の考え方を政策やシステムに取り入れるジェンダー・メインストリームについての知識を深める
S14	ラオス	最高の写真は簡単に撮れる		スマートフォンで写真を撮る技術や、写真家の観点を共有する。
S15	ベトナム	ベトナムの結婚式		<ul style="list-style-type: none"> ベトナムの結婚式についての簡単な紹介 日本とASEAN各国の伝統的な結婚式についての理解を深める
S16	フィリピン	ピノイ・サヤウタン		踊りや歌を通じて、フィリピンの生きた伝統を体験する。

セミナー主催者として、この経験から何を学んだか	セミナー参加者は何を学ぶことができたか	セミナーの目標は達成できたか
他のPYと知識や経験を共有する機会となり、青年の困難やニーズを抱えるコミュニティを発掘する。	起業に向けた秘訣や洞察、また人生経験による個人の価値感をじっくり考える機会を得た。青年が社会事業プロジェクトに着手する際に、新たに全体を見通せる力や枠組みを学んだ。	達成できた。PYは心を開き内容に取り組み、内容を理解するに十分な英語力もあった。しかし、学びをより深めるために、もっと時間があると良かった。
スケジュール管理や、興味関心をひく方法で物事を伝える方法を学んだ。	日本の書道文化と日本文字の書き方。	達成できた。準備してきたものをすべて伝えることができた。
<ul style="list-style-type: none"> 時間管理 参加者を統率し、注意をひく方法 チームワークはとて大切で、成功を導くカギとなることを学んだ 柔軟性 	<ul style="list-style-type: none"> PYはダイエットのための戦略をいくつか得た ジムに行かずに運動する方法 消費と食事のバランスをとる方法を学んだ 	達成できた。PYは、 1. セミナー中楽しんでいった。 2. 運動のためのヒントやテクニックを得た。 3. 食事に関する自分の目標を得た。 4. セミナーを通じて新しい友人を得た。
<ul style="list-style-type: none"> 上手に企画しプレゼンテーションする方法 PYに、活動内容に興味をもってもらう方法 	<ul style="list-style-type: none"> チンロンの一般知識(背景、技術、ルール) チンロンの実践能力やスキル 	達成できた。セミナー後、参加者は上手にチンロンをやることができ、技術を身につけた。また、皆、幸せで楽しそうだった。
ASEAN各国と日本におけるジェンダー・ギャップや困難に対する理解を広めた。	<ul style="list-style-type: none"> 性とジェンダーに関する基本的な概念を学んだ。 すべての人の実用的で戦略的なジェンダー・ルールを認識することを学んだ。 健康的な文化及びすべての人のための環境を、触媒として促進していくことの理解を深めた。 固定観念から解放された。 ジェンダーに関わらない平等な機会アクセスと包括的な参加を主張できるようになった。 	達成できたが、30名のPYに足りる十分な大きなスペースを用意することができればより効果的だった。ピスタポットは、ゲームやワークショップをするには狭すぎた。PYが、ジェンダーについて学び続ける楽しい体験にすることができていれば良いと思う。
マネジメント・スキル、人前で話すスキル	写真撮影のアイデアや創造性、写真家の観点	
<ul style="list-style-type: none"> 約40名の参加者に対して活動を企画する方法 結婚式における伝統を通じた、日本とASEAN各国の理解 活動を円滑に進める方法 参加者を楽しませる方法 	<ul style="list-style-type: none"> ベトナムの結婚式についての基本的な理解した ベトナムの伝統衣装を着用する体験ができた ベトナムの結婚式で配られる重要な贈り物について知った ベトナムの模擬結婚式を体験し、雰囲気を楽しんだ 	達成できた。知識の共有だけでなく、相互交流型の活動を組み合わせることができた。 ・PYは、ベトナムの伝統的な結婚式の衣装を試着し、茶道やギフト贈呈など、実際の結婚式の体験に興味をもった。
フィリピンの踊りを楽しく教えることができた。言語の壁があっても、踊りや歌を通じて、動きや音を作るという方法で、私たちは理解しあうことができるということを学んだ。	特に難しい踊りの技術や、正しい歌い方を身につけることができた。ほとんどの参加者がフィリピンの文化と伝統を学んだ。	達成できた。PYはきちんと内容を理解し、新しく学んだ踊りと歌のパフォーマンスを披露した。

セミナーID	国	セミナーの題名	主催者	セミナーの目標
S17	カンボジア インドネシア マレーシア ブルネイ	CIMBダンス		1. カンボジア、インドネシア、マレーシア、ブルネイの伝統的な踊りについての理解を深める。 2. 学ぶプロセスを通して楽しい体験をする。
S18	フィリピン カンボジア	「#No Thanks」適切な時に愛しましょう		1. 性教育への意識を高める：安全なセックスと中絶 2. 避妊方法について理解する
S19	シンガポール ラオス	こんにちは私、私はわたし		自分の振り返りを行いPYと共有することで、PY間の交流を促し、自分のことをより理解できるように促す。
S20	ラオス	チャンパーで魅力的な自分に		ラオス文化とチャンパーの花について理解してもらい、チャンパーの作り方を教える。
S21	シンガポール タイ	社会的包摂を創り、優雅に年を重ねよう		・社会的包摂への意識を高める ・PYに年をとるとはどう感じることかを伝える ・認知症への意識を高める
S22	タイ	メンタルパワーのためのヨガ、瞑想、マインドセットトレーニング		活動に参加してもらい、メンタルパワーを高める。
S23	マレーシア	創造的にアップサイクルし、価値の高いものに作り変えよう		海に捨てられる大量のプラスチックゴミへの意識を高める。
S24	ミャンマー	カラフルなミャンマー-シャン州南部		・シャン文化についての教養や体験を学び共有する ・新しい文化の学びを通じて、PYが楽しい時間を過ごす

セミナー主催者として、この経験から何を学んだか	セミナー参加者は何を学ぶことができたか	セミナーの目標は達成できたか
他のPYと交流するための方法を知り、PYのことをより深く知ることができた。同時に、リーダーシップ、プレゼンテーション・スキル、人前で話すスキルについても学んだ。	1. 4か国の伝統的な踊りを知った 2. 新しい友達を作った 3. 踊りを通じて4か国の文化をより深く理解した	達成できた。すべてが計画どおりで、ささいな技術的問題以外はスムーズに進行した。計画した時に、発信しようと考えていたメッセージの発信もできた。
1. タイムマネジメント 2. 参加者の関与 3. 様々な学びの手段の実施 4. オープン・ディスカッションの場の提供	10代の妊娠、避妊方法、中絶についての知識を得た。また、参加者同士で性教育に関する問題についてよりオープンにディスカッションできた。	達成できた。参加者がセミナーから何を学んだかをグループでディスカッションしてもらい、評価の場をセミナーの最後に設けた。すべてのグループがほぼ主要なポイントに触れ、私たちが伝えたかったメッセージをしっかりと受けとっていた。
・順応するための柔軟性 ・歩み寄ること ・個人的なつながりのためのPYのより良い視点の獲得	・自分自身をより深く理解できた。 ・他者とつながることに対して感情的に解放された。 ・自分のポジティブ面とネガティブ面をより良く理解した。 ・自分の将来への目的や情熱について認識できた。	達成できた。PYは自分自身に関する自分の考えを共有でき、他者も自分と同じような心配を持っているということを確認した。さらに、他者には言えないことを自分自身に向けて手紙を書いた。
ラオスの花を通して自国文化を共有できた。	楽しく、他のPYと良い時間を過ごした。	チャンパーの作り方を教えただけになってしまった。非常に多くの参加者がいたため、本当に大変だった。私たちのリクエスト以上に参加者が来ていたため、参加者の中には自分で実際にチャンパーを作れない人もいた。それでも、ほとんどの参加者がセミナーの時間を楽しんでいた。
異なる国の参加者と一緒にセミナーを円滑に進める方法	・社会的包摂と認知症に関する認識 ・高齢に向けた計画	達成できた。PYはセミナーにきちんと関わり、学びを得た。
同じような興味関心をもつ人とつながり、幸せなど、良い事柄を他人と共有する素晴らしい機会を作ることができた。	落ち着いてリラックスするための幸せと方法	達成できた。セミナーは成功だった。全員がヨガ、瞑想、呼吸法、自己愛という言葉の肯定ができ、ほとんどの参加者が楽しんでいた。
セミナーを上手に企画運営するという点において、またセミナーを交流型のものにするという点において、多くを学んだ。	ペットボトルをアップサイクルし、より付加価値の高い、活用できるものを作り出す方法を学んだ。	達成できた。参加者は私たちが設定した目的を達成することができた。
参加者がセミナーに積極的に参加してくれ、幸せな気持ちになった。	・シャン武術 ・シャン文化と伝統 ・シャンの衣装 ・シャンのダンスの動き	達成できた。参加者はセミナーを非常に楽しんで、私たちが共有したかった知識やメッセージを受けとっているのが分かった。

セミナーID	国	セミナーの題名	主催者	セミナーの目標
S25	マレーシア	社会のために、私は何をしてきたか		a) マレーシアの青年育成や青年主導のイニシアチブについて理解を深める b) 関係性を作り出し、他のASEAN各国や日本で行われているイニシアチブを考慮するためのソフトウェアを実践する
S26	インドネシア	星の下でのシンフォニー		体験を共有し、インドネシアの楽器を使った音楽にまつわるストーリーを伝え、インドネシアのフォークソングを歌って他のPYとの絆をつくる
S27	カンボジア	自分の一日のマスターであれ		・優先順位をつけることで、時間管理をより上手に行うことができる。 ・時間は戻らないので、自分の時間により価値をつける。
S28	タイ シンガポール	「人生の内省」自分自身を内観し心の声を深く聴こう		参加者が、 1. 内省の練習を通じて自己認識を強める 2. 深く聴くことを実践する（ディープリスニング）
S29	タイ	ヒジャブと武術の美点		ヒジャブを着用する理由を理解する。
S30	ブルネイ	コンテンツの作成		オフラインでコンテンツを作成する知識の共有 →写真撮影技術 →落書き作成 →いたずら書き作成
S31	マレーシア	アメージングレース（マレーシア、真にアジア）		このセミナーの目的は、マレーシアの伝統ゲームを参加者全員に紹介するとともに、相互理解や参加者同士のつながりを強めることである。

セミナー主催者として、この経験から何を学んだか	セミナー参加者は何を学ぶことができたか	セミナーの目標は達成できたか
1. プレゼンテーションスキルが向上した 2. 楽しい方法でメッセージを伝える方法を学んだ 3. このトピックに関心のあるASEAN各国と日本の青年について知った	1. IYRES（マレーシア青年研究所）についての知識 2. マレーシアのスタートアップにはどのような成功体験があるか 3. マレーシアやASEAN各国における、マレーシア人によって行われているボランティア活動	達成できた。私たちはこのセミナーでいくつか質問を受け、答えることができた。主催者の一人は、他国の青年との協働も計画していた。
a) イベントを運営する経験 b) 時間管理 c) 友情 d) 相互理解	a) 楽器を感じ、演奏する経験をした b) インドネシアの文化と音楽を学んだ c) 相互理解	達成できた。それは参加者のコメントからも分かるし、参加者は皆、インドネシアの音楽をとっても好きになった。
・PYの、5年前から今までの話を共有する	・時間への感謝が深まった ・違ったスケジュールでも、タスクをより上手く管理できるようになった	達成できた。PYは自分の過去の話や将来の目的についてより多くの時間をかけて熟考し、それによって、自分に与えられた時間への感謝の気持ちを深め、より真剣に時間管理を行うことができるようになった。
・良いファシリテーターになるための方法を学んだ。参加者が入りやすい雰囲気を創ること、示唆に富んだ質問をすること、参加者のための学びを強化すること ・生涯続く友人 ・基礎訓練や双方向コミュニケーションを行うといったトレーニングの基本原則など、国や背景を超えてトレーニングを実行していく上で共有の性質を理解した。	・参加者は、内省やディープリスニングという新しい体験をし、自分たちの日々の生活における内省やディープリスニングの価値を得た ・同じグループやベアのメンバーと深く関わる機会があった ・自分の人生経験における個人の啓示	達成できた。 1. 運営側とPYの間に、安心できる空間が作られた。 2. セミナーの目的とメッセージ性においてよく準備できた。 3. 主催側のチームとしての働きは素晴らしい、セッションを通して相互の信頼関係があった。
このセミナーを開催して初めて、こんなに多くのPYがこのトピックに興味を持っていることを知った。	1) ヒジャブを着用するスタイル 2) 武術ブンチャック・シラットを学ぶことで、自分自身を守る知識	達成できた。なぜムスリムの女性はヒジャブを着用しなければならないかという理由を説明できた。
・参加者と知識を共有できた ・参加者からフィードバックを得ることができた ・写真撮影技術、落書き、いたずら書きのサークルを作成した	・このセミナーからの知識 ・コンテンツを作成する経験、基本概念を知ることの重要性	達成できた。
主催者として、参加者にマレーシアのゲームを紹介し、つながりをつくるという目的を達成できた。	参加者は様々なマレーシアの伝統ゲームの遊び方を知るとともに、これまで話したことのない人々と友人になることができた。	達成できた。PYは全員が伝統ゲームを楽しんでいたし、これからも同様の活動を開催するか私たちに聞いてきていた。目標はすでに十分に達成できていると思う。

セミナーID	国	セミナーの題名	主催者	セミナーの目標
S32	ベトナム	ベトナムコーヒーで自分の感覚を目覚ませよう		コーヒーの情熱を高め、共有する 農場からカップまで、コーヒーの製造過程を共有する コーヒーの淹れ方を共有する：フィルターを通し、高い位置から注ぎ入れる
S33	ブルネイ	H.A.P.P.Y. (PYのためのHIV啓発プログラム)		HIV/AIDSへの意識を高める。
S34	シンガポール	対話の美学		意見が異なる人々に自分が心を開くまでの遍歴を共有する。 関心はあるが意見の異なる人との対話が苦手な人々を鼓舞する。
S35	インドネシア	海上とその彼方へ		命を守ること、危険を緩和することへの注意喚起を促すために、インドネシアの海洋の経験や、海上のサバイバル技術について共有すること。
S36	カンボジア	カンボジアのナーガにおける重要な日		カンボジアの伝統的な結婚式を見せ、実際の体験を通してカンボジアの伝統に直接的に関わる。
S37	ミャンマー	ミャンマーの衣装を着てみよう		ミャンマーの多様な民族や伝統衣装について知る。
S38	ラオス	美しさを輝かせよう		自分で化粧が上手にできない参加者に対して、美しさの秘訣について教え、共有する。
S39	マレーシア	多様性の中のハーモニー		・マレーシアの多様性を伝える ・多様な社会でどのようにイスラム教がハーモニーを促進しているか伝える ・イスラム教は平和を愛する信念があるということ伝える ・ヒジャブについて、また、ムスリムがヒジャブを着用する理由を伝える
S40	シンガポール	みんなに受け入れられるアートとデザイン		障がい者であることに留意して会話を促進し、アイデアの生み出しを促すこと。

セミナー主催者として、この経験から何を学んだか	セミナー参加者は何を学ぶことができたか	セミナーの目標は達成できたか
ファシリテーション・スキルとプレゼンテーション・スキル コーヒー愛飲者の新しいネットワーク	・農場からカップまで、コーヒーの製造過程の知識を得る ・2つのテクニックがあるコーヒーの淹れ方を知る：フィルターを通し、高い位置から注ぎ入れる ・コーヒーの情熱を共有する	達成できた。参加者に質問をしたらコーヒーアートについてより多くの発見があり感動したと言っていた。
セミナーを運営することからチームを管理することまで。	参加者のフィードバックから、このセミナーが非常に得ることの多いものであったことが分かる。	達成できた。このセミナーの主な目的は達成できた。
・PYとの関係性を深めた ・パーソナル・ストーリーを共有することの自信を得た ・似たような状況を経験するPYをサポートできた	・難しい会話に対応するための手段を知る ・他のPYとの共有から強みを得る ・他のPYの人生についての理解を深められた	達成できたが、より長い時間があると良かった。
船内で、多国籍の参加者の中でイベントを行うのは初めての経験となった。	参加者が海洋生活についての新たな体験をいくつか行い、基本的な海上サバイバル技術を学べたら良いと思うし、そう信じている。	達成できた。ただ、すべてのテクニックを披露する時間が不足していたし、参加者の中にはプールでの体験をできなかった人もいた。
PYたちが結婚式を通じてカンボジアの文化に興味をもってくれたため、文化の違いはある程度興味深いということを学んだ。	参加者は結婚の複雑なしきたりを目の当たりにし、カンボジアについて理解してくれた。	達成できた。PYはすべての活動を楽しんで、積極的に活動に参加していた。また、主催者の指示に従っていた。
PYは他の文化について非常に熱心に知り、学び、衣装を着た。	参加者はミャンマーの衣装を着用し、民族やその個性についての知識を得た。	達成できた。
参加者から美しさの秘訣を学び、またその方法を交換しあうことができた。	参加者は、最低でも、基本的な化粧の方法を学び、日常生活の中で行えるスキンケアの方法を理解した。	達成できた。参加者全員が私たちが伝えようとしていることを非常に注意深く聞いてくれ、私たちが理論だけでなく実践することができたので、このセミナーの目的は完全に達成できた。
・イベントを管理する能力 ・重いテーマを伝えるスキル ・注目を集めるノウハウ	・マレーシアの多様性の理解 ・イスラム教は平和とハーモニーを促進させる宗教であるということ	達成できた。参加者は熱心にこのテーマについての理解を深めていた。また、交流に熱中し、テーマに沿った質問もたくさんしていた。
新しい考えやインスピレーション	より情報を得ることができ、目的を達成できた。	セミナーを実行できた、という意味では達成できた。 時間が非常に短かった、という意味では、達成できなかった。

セミナーID	国	セミナーの題名	主催者	セミナーの目標
S41	タイ	起業戦士		<ul style="list-style-type: none"> 似た興味関心のあるPY同士をつなげ話をし、アイデアやプロジェクトを一緒に起業できるように考える 私たちの経験やゲームを通じて、参加者が起業できるように促す
S42	ブルネイ	「失業」異常発生の拡大		<ol style="list-style-type: none"> ブルネイの失業者について深く知る 失業状態から抜け出すための解決策のアイデアを他のPYから得る
S43	フィリピン	「染料文化を復興させよう」ハブロン(フィリピンの伝統織物)の現代化から		このセミナーの目的は、もうほとんど忘れられてしまっているフィリピン・イロイロ市のハブロン織物着用という伝統の一例を見ることを通じ、徐々に消え行く状況に直面している貴重な文化への感謝の意を少しずつ伝えていくことである。
S44	インドネシア	「インドネシアの文化遺産の崇拝」ローカル体験		インドネシアの文化や伝統の実際の価値についての洞察と知識を伝え、実演すること。また、PYにとって、インドネシアの文化遺産について直接学ぶ経験とすること。
S45	カンボジア	ただの木ではない、生活の一部		全参加者にカンボジアのヤシの木の有益性を伝え、またヤシの木からできる食物を試食する機会を与える。
S46	ミャンマー シンガポール	一つのビート、一つの愛、一つの旅		このセミナーの目的は、参加者に様々な愛の言葉に意識を向け、学んでもらうこと、そして、安全な空間の中で、自分の過去の経験を話し、仲間と共有するように促すことである。
S47	日本	税関制度の導入と仕事体験		このセミナーを通じて、税関そのもの、税関の特徴、日本とASEAN関係を知り、学んでほしい。
S48	ベトナム	内なる自分への旅		PYたちが自分自身をもっと理解し、意識を集中し現実を受け入れることについて認識する機会を得る。

セミナー主催者として、この経験から何を学んだか	セミナー参加者は何を学ぶことができたか	セミナーの目標は達成できたか
<ul style="list-style-type: none"> 似たような背景や興味関心をもつPYと出会い、意見を出して話し合うことで学びを得た イベントやセミナーの運営方法を学んだ 	<ul style="list-style-type: none"> 私たちが共有したアイデアや経験を知ることができた 私たちが行ったスタートアップ・ゲームを楽しんだ 	<ul style="list-style-type: none"> 達成できた。PYは似たような興味関心のある他のPYと一緒に、自分たちの問題や解決策からたくさんの新しいアイデアを考え出した。 PYは、将来のプロジェクト創出に向け、似たバックグラウンドや興味関心のある人、友人とたくさん知り合えた。
プログラムの流れを作成する中で、プログラムをどのように計画し管理していくかということ学んだ。	まず最初に自分のスキルや活用できる資源を売り、どのように自立するのか、ということ学び、自分の仕事をどう生み出していくかについて理解した。	達成できた。PYはブルネイの問題を知り、解決策を提案した。
私は、たくさんの努力、主導力、そしてディスカッション中のPYとのシェアリングを通じて地域の織物文化を保護する他国のプロジェクトを学んだ。また、異なる文化背景をもつ団体を統率するという経験を得た。	参加者は、フィリピン織物に対して、特にハブロンに対して、文化への感謝をもてたと思う。また、特に政策立案、パートナーシップ、青年の関わり、社会的起業という観点で、フィリピンが文化を保護するためにどのような取組をしているかについて、洞察できたと思う。	達成できたと思う。セミナーの後、参加者はディスカッションであがったプロジェクトの詳細について質問をし、プレゼントされたハブロンで作られたギフトに対して多くの感謝の意を示していた。
PYセミナーを運営することで、チームや参加者を管理することを学んだ。	参加者はインドネシアの文化や伝統様式に対する知識や洞察を得るという経験ができた。	達成できた。このセミナーは人生経験を結びつけて、ローカル体験ができた。
PYは、ただプレゼンテーションを聞くのではなく、ヤシの木からできる製品に触れ親しみ、お土産を喜んだ。	参加者は、カンボジアのヤシの木がとても有用であることを学んだ。ヤシの木からできるお土産製品をもらって、カンボジアからのギフトとしてそのお土産を持って帰った。	達成できた。多くのPYが楽しんで、私は自分のメッセージが彼らに伝わっているという実感を得ることができた。
主催者として、参加者のディスカッションをどう促進させていくかという気付きを得た。	参加者は様々な愛の言葉についての知識を得、安全な空間の中でオープンに共有する勇気を持つことができた。	達成できた。参加者はこのセッションを楽しみ、4名の参加者はステージで共有した。
以下のことを学んだ。 <ul style="list-style-type: none"> 企画運営能力 プレゼンテーションの方法 コミュニケーション・スキル PYからの税関についての見方 	参加者は以下のことを学んだと思う。 <ul style="list-style-type: none"> 税関の役割 乗客の荷物検査の重要性 税関職員の経験 	達成できた。PYは積極的に質問をし、ロールプレイも行い、税関について理解し学ぶことができたと思う。
プレゼンテーション・スキル、コミュニケーション方法、他者の話を聴く方法。	<ul style="list-style-type: none"> 自己認識 自分への思いやり リスニングスキル 共有するスキル 他者への思いやりと受け入れの心 意識を集中し現実を受け入れること(マインドフルネス)の認識 	達成できた。参加者から良いフィードバックを得、このセミナーの後にもいろいろ話げできた。

セミナーID	国	セミナーの題名	主催者	セミナーの目標
S49	ミャンマー	「バテイン」ミャンマーの計り知れない美しさ		ミャンマーの文化であるバテインの傘を共有し、傘に色付けを体験する。
S50	日本	「米のある人生は素敵」餅つきを通じて		餅つきとは何かを理解し、日本の米を伝える。餅の試食を通して日本の文化を広める。
S51	日本	日本式メークのパワー		日本式メークを通して日本の文化を共有し文化を学ぶ。

(6) ソリダリティー・グループ (SG) 活動

SG活動は、PY相互の理解と友情を深めることを目的とした活動であり、主にSG対抗や全員参加形式のレクリエーションを行った。この活動の運営は、担当顧問であるNL3名（タイ、カンボジア、ラオス）の指導の下、SG活動小委員会が行った。

SG活動小委員会は、SG内の団結力や連帯感を高めると同時に、活動を通してPYが心身ともにリフレッシュできるように多彩な企画を立てた。こうしたSG活動を通して、SG内の結束だけでなくPY全体の一体感も高められた。

<SG活動の日程・内容>

SG活動Ⅰ（11月7日）

- ・ SGチア
- ・ SSEAYPゲーム（5つの質問、「お金を集めよう！」）
- ・ SG対抗ゲーム（人間知恵の輪、分子ゲーム、「フロロワーになるう」、「床に手、お尻、足」）

SG活動Ⅱ（11月15日）

- ・ SG対抗ゲーム（シャトル・キック、長縄とび、マジック・スティック、ジェスチャーゲーム、ダンス、バスケットボール）

SG活動Ⅲ（12月1日）

- ・ SGパフォーマンス
- ・ SG対抗ゲーム（「親指を捕まえよう」、パーフェクト・マッチ、「体をつなぎよう」）
- ・ SSEAYP全体の振り返り
- ・ 皆でお互いにメッセージを書き合う

(7) ナショナル・プレゼンテーション

ナショナル・プレゼンテーション (NP) は、PYが音楽・舞踊・劇・説明・ビデオ等を用いて、自国の文化・伝統・歴史・国民性・現在の青年を取り巻く環境等を紹介することにより、参加各国についての理解を深めること等を目的としている。

準備に当たっては、他の船内活動に支障をきたさないように配慮した。企画・準備から司会進行、パフォーマンス、音響・照明、ステージの飾りつけに至るまで、全てPYが役割を分担して行った。PYたちは、各国の文化の差異を再認識するとともに日本と東南アジア文化圏の中での多様性や類似性について実感した。

また、各国の食文化に対する理解を促進することを目的として、各国NPが行われる日の昼食には、当該国の代表的な料理が2品提供された。



SG活動（11月7日）

セミナー主催者として、この経験から何を学んだか	セミナー参加者は何を学ぶことができたか	セミナーの目標は達成できたか
・セミナーの実施ノウハウ ・主催者内でのタスクの共有	・バテインの傘についての知識を得る ・柄について知る	達成できた。参加者はバテインの傘がどのようにして作られるかの知識を得たし、傘に色付けできた。
何かを伝えようとする時、聞き手側の立場について考えなければならないということ。	他の国にももち米文化はあるが、もち米の作り方、食べ方は異なり、すべてが興味深かった。	達成できなかった。可能であれば、全員に赤飯を食べてほしかったが、船のキッチン事情で実現できなかった。
参加者は日本式メークに興味があり、何人かの参加者は日本の化粧品を知っていたので、私たちはアジアにおいて日本の製品はある種有名なものだということを学んだ。	参加者は日本式メークのトレンドや日本の伝統的なふるまいを学んだと思う。	達成できなかった。メークを通してそれぞれの文化を共有する十分な時間がなかった。

【各国NPの概要】

日本	<p>テーマ「団結・絆」</p> <p>日本のNPは、日本人の中に浸透している「団結・絆」の精神を社会的・文化的な観点から、歴史を遡りタイムトラベルするフィクションの形で紹介し、1500年の秋、1700年の冬、1900年の春、2018年の夏、そして現代の5つの場面から構成される。能、琴、和太鼓、篠笛、阿波踊り、よさこい、盛岡さんざ踊り、ソーラン節などの伝統文化やポップカルチャーを通じて、日本人が団結・絆の精神をもつていかに困難を乗り越えてきたかを表現した。「現代」の場面においては、現在日本が直面している高齢社会の問題などを、ナレーションつきビデオで紹介した。</p>
ブルネイ	<p>テーマ「私たちの遺産、文化、未来」</p> <p>「予期せぬ宝の王国 (A Kingdom of Unexpected Treasures)」と呼ばれるブルネイは、その豊かな文化と伝統にあふれている。NPでは、ブルネイ4地区それぞれの特徴を通じて、ブルネイのもつ遺産、独自性、文化、伝統を紹介する。その中には、「東洋のベニス」とも呼ばれる水上集落カンボン・アイルの栄光の歴史を始め、ブルネイに暮らす7民族を代表して、トゥトン地区のドゥスン文化、トゥンブロン地区のムレット文化、などが含まれる。ブルネイの文化・伝統に加え、経済・資源、そして、1984年のブルネイ独立から2017年のハサナル・ボルキア国王即位50周年までのブルネイの発展について紹介する。さらに、ブルネイ政府が掲げる長期開発計画「ビジョン2035」の下に推進するPKBNと呼ばれる青年育成プログラムにおいて、明日のリーダーである青年たちが、どのように規律正しく精神的・感情的強さをもった人間になっていくかを紹介する。急速な開発とグローバル化を受けても、ブルネイでは、その豊かな文化・伝統は今も維持され、次世代に受け継がれている。このNPは、ブルネイの文化を紹介するだけにとどまらず、「ビジョン2035」の下、ブルネイが将来実現しようとしているものが何なのかを考えさせるものである。</p>
フィリピン	<p>テーマ「ヒーロー：自身の中のヒーロー」</p> <p>フィリピンのNPは、ある少女が、祖父の助けを得ながら魔法の箱とともに理想のヒーローを捜す旅の物語である。過去にタイムトラベルし、フィリピン各地の音楽や華やかな踊りに出会う。少女がタイムトラベルから現実に戻ってきた時、台風の被害者を支援している有名人に出会い、台風の被害者の話を聞くことになる。NPでは、海外で働くフィリピン人が、故郷の家族を想いながら強く生きている姿も描き出す。最後に少女は、ヒーローはどこにでもいることに気付く。国のために命を懸けたヒーロー、神から与えられた才能を世界に示すヒーロー、自身の文化そして生き様が世界から忘れ去られないよう活躍しているヒーロー、人々にひらめきを与えるヒーロー。フィリピン・コンティンジェントが伝えたいのは、ヒーローは完璧である必要はなく、どんな小さなことでもヒーローになれる、必要なのは思いやりの心と目的を果たしたいという意思である、ということである。私たちは皆、ヒーローになる資質を持っていて、それに気づき、こたえることでヒーローになるのである。</p>

タイ	<p>テーマ「タイらしさを捜す旅」</p> <p>タイのNPは、多様性を大切にして、魔法の魅力の中に、伝統的な要素と現代的な要素を結びつけた。ドルフィンホールに魔法をかけて、観客を「タイランディア」へ誘う。物語は、魔法学校の最終試験問題として出された、「タイらしさ」とは何か定義しなさい、から始まる。学生たちは、ウィズダム・マスターの手引きに従い、ささやき声に耳を傾けながら、星を追っていくと、たどり着いたのはタイの伝統的な祭の場であった。そこで村人たちを手助けすると、星の光に導かれ、次にたどり着いたのは「タイランディア・タレントショー」が行われているステージであった。学生たちは、ステージ上で繰り広げられる数々のタレントショーに巻き込まれる。長旅に疲れきった学生たちの目の前に突然現れた魔法学校の先生の正体は、ウィズダム・マスターであった。最終試験問題の解答は、「タイらしさ」は定義できるものではなく、多様性を理解する、ということであった。</p>
ベトナム	<p>これは、ベトナム人の心を忘れてしまった現代の少女の物語である。昔々、水のように穏やかで、火のように力強く、木のように優雅で、金属のように機知に富んだ、以上4つの要素からS字の形をした土地ができあがった。このS字形の土地が「ベトナム」と呼ばれる。少女の旅は、ベトナムの黎明期、「妖精とドラゴンの太陽」に関する神話とともに始まる。これこそがベトナム人の起源である。何千年もの歴史の中で、ベトナムは、皇帝の生活を表現した踊りなどを含む多様な文化を見事に調和させた国家を築き上げていった。少女は、ベトナムに伝わる伝統信仰「三府聖母道信仰」の儀礼と、それに使われる様々な音楽、歌、踊り、衣装に出会う。「三府聖母道信仰」の儀礼は、2016年にユネスコ無形文化遺産に登録された。少女は、ベトナムは50を超える多様な民族が暮らす多民族国家であり、それぞれの民族が独自の言語、生活様式、文化遺産、伝統衣装を有していることを知る。少女の旅は、美しい水田の日々に続いていく。何世代にもわたって、穀物と米はベトナム人にとって欠かせないものとなり、豊かな香り高い米製品は自然の恵みとして大切にされてきた。3,260kmに及ぶ海岸線を持つベトナムでは漁業も盛んであり、漁師の歌う歌声も紹介される。長年の歴史を経て、絹織物産業も盛んとなった。古くからいつの時代も絹織物と一緒にいるのが、ベトナム人女性の美しさであり、最終的に少女は、「アオザイ」などが持つ伝統的な価値に出会うことになる。</p>
カンボジア	<p>テーマ「ダイナミック・カンボジア」</p> <p>カンボジアのNPは、カンボジア人の伝統的な生活様式と現代の生活様式を描き出す。最初のビデオでは、カンボジアPYが、日常生活、宗教、民族、青年の社会貢献活動、観光スポットなど、様々な切り口からカンボジアを紹介する。本編は、古代インドの叙事詩ラーマヤナから発想を得て、カンボジアの農民の日常生活と、その自然や文化との結びつきを、ラプストーリー仕立てでお届けする。金色の人魚の踊り、稲刈りの踊り、カンボジア武術ポッカタオ、など、様々な伝統的な踊りや人気のある演目を紹介する。最後は、カンボジア・コンティンジェントのオリジナル・ソング「ラスト・スマイル」で締めくくった。</p>
インドネシア	<p>インドネシアのNPは、「パンチャシラ」と呼ばれるインドネシアの建国5原則（信仰、人道主義、統一、英知、社会的公正）を伝える。</p> <p>第1原則「信仰」：パプアの歌「ネノ」が歌われる中、祭司によって、神への礼拝のための祭壇が準備される。続いて、少女がアチュの歓迎の歌「サレウム」を歌う。これにより、多様な宗教信仰の背景を持つインドネシアが、建国の第1原則として「信仰」を掲げていることを表現する。</p> <p>第2原則「人道主義」：カリマンタンの伝統的なギターにのせて、インドネシア各地で起きている災害被害を表現した詩を朗読する。これにより、災害被害を受けても、何度も立ち上がり助け合うインドネシアの「人道主義」を表現する。</p> <p>第3原則「統一」：パプアのエ・マンボ・シンボ、ジャカルタのオンデル・オンデル、北スラウェシのピソック、カリマンタンのゴトットム、西スマトラのタリ・ピリン、など、インドネシア各地の踊りを紹介し、多様な文化を大切にしながら「統一」を目指すインドネシアを表現する。</p> <p>第4原則「英知」：マルクのオーラベ・サフレカレカに続き、伝統的な武術であるタリ・ブンチャック・シラットを紹介する。最後に、クダ・ルンピン・ダンスに象徴される王を紹介し、インドネシアを導く指導者たちの「英知」を表現する。</p> <p>第5原則「社会的公正」：「パンチャシラ、私たちの故郷」という歌に乗せて、パンチャシラの5原則を紹介する。続けて、全PYがインドネシア各地の伝統衣装を身に付けて、インドネシア・ジャヤを歌う。インドネシアは多様な文化や信仰を抱えているが、全ての人が「社会的公正」によって共存していることを表現する。</p>

ラオス	<p>ラオスのNPは、ラオス全国各地の独自性を表現する。ラオス統一の象徴として、伝統楽器ケーンと国花チヤンパーを取り上げ、ラオスの美しい文化と伝統を紹介する。最初の演目として、ラオスの最も大きな祭である出安居での土・水・風・火の神への崇拝の様子を紹介する。文化的な祭の様子に加えて、ラオスの生活様式や絹織物、何世代にもわたって受け継がれてきた工芸品についても紹介する。最後の演目では、2017年12月にユネスコ無形文化遺産に登録されたケーン音楽の踊りを紹介する。</p>
マレーシア	<p>テーマ「マレーシアの歴史」</p> <p>マレーシアのNPは、マレー半島の始まりからマレーシア独立までの歴史を通して、美しい多民族文化を表現する。マラッカ王国の物語、マレー半島の先住民の踊りであるセワン・ダンスで幕を開ける。マラッカ王国は、様々な農作物に恵まれ、その戦略的な地位により国際的な貿易港となった。インドや中国からマレー半島にやってきた商人たちは、地元の人々と結婚し、「ハバ・ニョニャ」を生んだ。ポルトガルの到達によりマレー半島は植民地化されたが、ポルトガルの専政に反発し、各民族は団結して1957年の独立を勝ち取った。NPでは、マレーシアに広がる様々な民族、マレー系、中国系、インド系などの様々なダンスを中心に紹介する。</p>
ミャンマー	<p>テーマ「ミンガラバー」</p> <p>ミャンマーのNPのテーマは、「あなたに吉兆がありますように」を意味するミャンマー語の挨拶「ミンガラバー」である。素晴らしい芸術文化の歴史、民族の多様性と融合、各地の社会文化背景から見たミャンマー人の美しい行動様式と伝統の3つの部分から成る。ミャンマーの初期文明は、ピュー時代に始まり、バガン王朝時代に発展した。ピューの踊りとバガンの踊りは、最高水準の芸術文化として表現される。ミャンマー全土には135の民族があり、大きく8つに分けられる。民族の踊りは、ミャンマーの融合、強い絆、尊重と相互理解、そして、多様な民族の平和的共存を表現する。ミャンマーの人口5,150万人の7割は、農村地域に暮らしている。「ンウェ・ウー・アンヤー」という物語は、農村の興味深い伝統や礼儀正しい人々の温かい雰囲気や生活様式を描くとともに、農村地域の踊りや、未成年の少年の出家式の様子を紹介する。</p>
シンガポール	<p>テーマ「各時代のシンガポール」</p> <p>シンガポールのNPは、シンガポールを特徴づける出来事を紹介しながら、各時代を作り上げてきた人々を通して語られる、シンガポールの祝福と同情の物語である。例えば、バラタラティアム古典舞踊、マレー武術シラット、中国武術、中国歌台など、伝統芸術が含まれる。また、シンガポールの現代文化、ナショナル・デイに歌われる歌など、現代芸術も含まれる。これらを通して、急速な発展を遂げたシンガポールが経験してきた奮闘を正直に描き、シンガポールらしさを規定することは決して簡単なことではないが、いつでも充実した意義深いことであることを表現する。</p>

(8) 自主活動

自主活動は、PY個人又は数名のグループにより、自らが行いたいと思う活動を自由に企画し、参加者を募り、実践する活動である。これによりPYは自らの考えや思いを発信、企画、実践する力を養うことができ、国やSG、DGの枠を超えて活発に交流することができた。

<自主活動の例>

- ・ ディーパバリ
- ・ タイマッサージ・ワークショップ
- ・ ファッション・ナイト
- ・ ダンス・バトル
- ・ ミスター&ミス「アボン・ラーオ」コンテスト
- ・ 「ボイス・オブ・にっぽん丸」カラオケコンテスト
- ・ 映画鑑賞会
- ・ ボードゲーム
- ・ 四国紹介
- ・ 日本酒フェスティバル
- ・ もちつき
- ・ 茶道

- ・ 箏
- ・ すいか割り
- ・ 浴衣紹介
- ・ コーラン紹介
- ・ 平和を考える千羽鶴作り
- ・ 社会にインパクトを与える活動をしているPYを紹介するコンテスト

(9) 訪問国活動振り返り

訪問国における活動や経験を振り返り、SGごとにも共有した。活動や経験を他のメンバーに伝え、コメントをもらうこと等を通じて、一人ひとりの経験等を異なる観点から見直すことができた。

(10) フリーデー

船内及び訪問国での密度の濃い活動をこなす中、PYの体調管理のための時間を確保するため、公式な活動を行わない半日フリーデーを3回、全日フリーデーを2回設けた。また、フリーデーは、PYが自発的に自由に参

加者同士の交流を深める機会でもあった。フリーデイとした日はモーニングコールや運動を行わず、モーニング・アセンブリーは通常よりも時間を遅らせ、12時から12時30分の間に行った。

(11) その他の活動

① 避難訓練（11月2日）

ドルフィンホールでにっぽん丸乗組員から説明を受けた後、各自室に戻り、船内放送と非常ベルを合図に、各自救命胴衣を着用し、指定の避難場所に集合した。ここでは担当の乗組員から緊急事態発生時の対応方法について説明を受けた。

② 船内見学（11月4日）

SGごとに操舵室の見学を開催した。備えられている

最新の機器やその操作方法等について乗組員から説明を受けた。

③ 管理官講話（11月5日）

山谷英之管理官が、出航に当たって、PYに講話を行った。日本・ASEAN関係の歴史的経緯、船での交流活動の意義などを述べ、本事業が多くの関係者に支えられているものであることを常に意識し、自身の成長を通して支えてくれた人々に報いてほしいと激励した。

④ 船長講話（11月5日）

にっぽん丸の二宮悟志船長が船の設備や航海に必要な専門知識について説明した後、海に関する質疑応答を行い、PYの船及び航海に対する認識を高めた。

イ、政府要人への表敬訪問、地元青年との交流、産業・教育・文化・社会福祉分野などの諸施設を見学する課題別視察などを行った。ブルネイの訪問国活動においては、ディスカッション活動の8つのグループ・テーマに因んだ内容の課題別視察を行った。

各国における訪問国活動日程を訪問国順に次に掲げる。

5 訪問国活動

訪問国における活動は、各国政府及び各国受入委員会が計画し、実施した。各国受入委員会には各国事後活動組織のメンバーも含まれており、バスへの添乗など訪問国活動の実施に当たっては、既参加青年が中心的な役割を担った。

東南アジア各訪問国には、それぞれ4日間の日程で訪問し、それぞれの国において、一般家庭でのホームステ

(1) ブルネイ

月日	時間	活動内容
11月10日 (土)	7:30-8:00 9:00 9:30-11:30 12:00-12:30 12:45-13:15 13:30-17:30	ブルネイ国旗掲揚式（於 ドルフィンホール） 入港（ムアラ港） ブルネイにおける活動についての受入委員会によるブリーフィング（対COC） 記者会見（於 ラウンジ「海」） 受入委員会によるオリエンテーション（対PY、於 ドルフィンホール） 課題別視察（ディスカッション・グループ（DG）別） DG1: ブルネイ・ダルサラーム大学リーダーシップ・イノベーション研究所（ILIA） DG2: 首相府情報局 DG3: 外務省 DG4: 文化青年スポーツ省地域開発局高齢者活動センター DG5: 教育省 DG6: 開発省水上集落 DG7: 文化青年スポーツ省歴史センター、言語・文学局 DG8: 資源人材開発産業省
	20:00-21:30	歓迎夕食会（於 インターナショナル・コンベンション・センター） ・記念品交換 ・ Mr. Awang Haji Zafri bin Haji Mohamed文化青年スポーツ省青年スポーツ局長代理挨拶 ・山谷英之管理官挨拶 ・加藤元彦在ブルネイ・ダルサラーム国日本国特命全権大使挨拶 ・ Major General (Rtd) Dato Paduka Seri Haji Aminuddin Ihsan bin Pehin Orang Kaya Saiful Mulok Dato Seri Paduka Haji Abidin文化青年スポーツ大臣挨拶
11月11日 (日)	8:30-9:00 11:40-12:40	ホームステイ説明（対PY、於 ドルフィンホール） ホームステイ・マッチング（於 インドア・スタジアム）
	11月12日 (月)	14:00 19:00-21:00
11月13日 (火)	12:00-13:00 14:00-15:00 15:30-16:30	PYホームステイから帰船 船内公開 出港式（於 ムアラ港） ・ PYによるフラッグ・チアー ・ PY代表(ミャンマー-YL)挨拶 ・ Datin Paduka Dr. Hajah Norlila binti Dato Paduka Haji Abdul Jalil文化青年スポーツ省事務次官挨拶 ・ 記念品交換
	17:00	出港

(2) フィリピン（マニラ）

月日	時間	活動内容
11月17日 (土)	7:30-8:00 9:00 9:30-11:30 14:30-15:00 16:00-17:00 17:30-20:30	フィリピン国旗掲揚式（於 ドルフィンホール） 入港（マニラ港） フィリピンにおける活動についての受入委員会によるブリーフィング（対COC） 受入委員会によるオリエンテーション（対PY、於 ドルフィンホール） 記者会見（於 マカティ・シャングリラ・ホテル） 到着歓迎式・歓迎夕食会（於 マカティ・シャングリラ・ホテル） ・ Mr. Manuel Monsour Del Rosario III下院議員挨拶 ・ 山谷英之管理官挨拶 ・ 桑原敦在フィリピン共和国日本国大使館公使・総領事挨拶 ・ Undersecretary Ronald Gian Carlo L. Cardema国家青少年委員会議長による基調メッセージ紹介 ・ Ambassador Junever M. Mahilum-West外務次官補基調メッセージ ・ 記念撮影 ・ 記念品交換
11月18日 (日)	7:00 8:45-9:00 10:00-13:00 14:30-16:30	<管理官、フィリピンNL、各国YL> ダバオへ出発（5J-963便） ----- ホームステイ説明（対PY、於 ドルフィンホール） 課題別視察（SG別） SG-A: ファー・イースタン大学 SG-B: フィリピン国立博物館 SG-C,D: マニラ首都圏開発庁 SG-E,F: 危険薬物委員会 SG-G: JICA技術職業高校支援プロジェクト・リサール校（RESPSCI） SG-H,I: リセウム・オブ・ザ・フィリピン大学 SG-J,K: フィリピン情報局 ホームステイ・マッチング（於 GSIS体育館） ・ Asec. Paul Anthony M. Pangilinan国家青少年委員会理事挨拶 ・ 吉田哲也副管理官挨拶
11月19日 (月)	14:20 16:00 18:00-21:00	<PY> ～終日ホームステイ～ <管理官、フィリピンNL、各国YL> マニラ空港到着（PR-2814便） <各国YL> ホームステイ・マッチング（於 ギリガンズ・レストラン） ----- 既参加青年の集い（於 ドルフィンホール及びダイニングルーム）
11月20日 (火)	12:00-13:00 14:00-15:00 15:30-16:30 17:00	PYホームステイから帰船 船内公開 出港式（於 マニラ港） ・ PYによるフラッグ・チアー ・ Ms. Daphne Purnellホストファミリー代表者挨拶 ・ PY代表（日本YL）挨拶 ・ 記念品交換 ・ Asec. Paul Anthony M. Pangilinan国家青少年委員会理事挨拶 出港

(3) フィリピン（ダバオ）（代表団：管理官、フィリピンNL、各国YL）

月日	時間	活動内容
11月18日 (日)	9:00 11:00-13:00 13:30-14:30 15:30-17:30 18:30-20:30	ダバオ空港到着（5J-963便） 歓迎昼食会（於 マルコポーロ・ダバオ） ・ Ms. Maria Clara Belen Sunga Acostaダバオ市議会議員挨拶 ・ 山谷英之管理官挨拶 ・ 記念品交換 治安・安全指令センター（911）訪問 マラゴス公園訪問 交流の夕べ（於 アミヤ・リゾート・レジデンシーズ） ・ Dr. Jetty Jet R. Lu SSEAYPインターナショナル・フィリピン・ダバオ地区会員挨拶 ・ Mr. Steve Laurence M. Arquiza SSEAYPインターナショナル・フィリピン・ダバオ地区会員挨拶 ・ PY代表（シンガポールYL）挨拶
11月19日 (月)	7:00-9:00 12:30	歓送朝食会（於 マルコポーロ・ダバオ） ・ 記念品交換 マニラへ出発（PR-2814便）

(4) タイ

月日	時間	活動内容	
11月24日 (土)	7:30-8:00	タイ国旗掲揚式（於 ドルフィンホール）	
	9:00	入港（バンコク港）	
	9:00-11:00	タイにおける活動についての受入委員会によるブリーフィング（対COC）	
	11:00-12:00	記者会見（於 ラウンジ「海」）	
11月25日 (日)	13:15-13:45	受入委員会によるオリエンテーション（対PY、於 ドルフィンホール）	
	14:00-15:00	到着歓迎式（於 ドルフィンホール） ・ Mr. Poramatee Vimolsiri社会開発・人間安全保障省事務次官挨拶 ・ 山谷英之管理官挨拶	
	17:30-18:00	社会開発・人間安全保障大臣表敬訪問（於 ワユバック・コンベンション・センター） ・ Mr. Poramatee Vimolsiri社会開発・人間安全保障省事務次官から第45回「東南アジア青年の船」事業報告 ・ General Anantaporn Kanjanarat社会開発・人間安全保障大臣挨拶 ・ 山谷英之管理官挨拶 ・ 記念品交換 ・ 記念撮影	
	18:00-20:00	歓迎夕食会（於 ワユバック・コンベンション・センター） ・ 地元学生によるパフォーマンス ・ PYによるパフォーマンス	
	8:30-9:00	ホームステイ説明（対PY、於 ドルフィンホール）	
	10:00-12:00	地元青年との交流（SG別） SG-A,B:タイ商工会議所大学 SG-C,D,E:チャンカセーム・ラーチャパット大学 SG-F,G:バンコク・トンブリー大学 SG-H,I:タンマサート大学教養学部 SG-J,K:スアンドゥシット大学スアンドゥシット国際料理学校	
	13:30-14:30	ホームステイ・マッチング（於 バンコクユースセンター）	
	18:00-21:00	既参加青年の集い（於 ドルフィンホール及びダイニングルーム）	
	11月26日 (月)		<PY> ～終日ホームステイ～
	11月27日 (火)	12:00-13:00	PYホームステイから帰船
14:00-15:00		船内公開	
15:30-16:30		出港式（於 バンコク港） ・ PYによるフラッグ・チアー ・ General Anantaporn Kanjanarat社会開発・人間安全保障大臣挨拶 ・ PY代表(プルネイYL)挨拶 ・ 記念品交換	
	17:00	出港	

(5) ベトナム

月日	時間	活動内容	
12月2日 (日)	9:00	入港（カトライ港）	
	9:30-11:30	ベトナムにおける活動についての受入委員会によるブリーフィング（対COC）	
	13:30-14:15	記者会見（於 ラウンジ「海」）	
	14:15-14:45	受入委員会によるオリエンテーション（対PY、於 ドルフィンホール）	
12月3日 (月)	15:00-16:00	到着歓迎式（於 カトライ港） ・ PYによるフラッグ・チアー ・ Mr. Nguyen Ngoc Luongベトナム国家青少年委員会常任副議長挨拶 ・ 山谷英之管理官挨拶	
	18:00-19:15	歓迎夕食会（於 ホーチミン市ミーティングホール） ・ Mr. Huynh Cach Mangホーチミン市人民委員会副委員長挨拶	
	19:30-21:00	文化交流（於 ホーチミン市ミーティングホール） ・ 地元青年によるパフォーマンス ・ PYによるパフォーマンス	
	8:15-8:45	ホームステイ説明（対PY、於 ドルフィンホール）	
	10:00-11:30	課題別視察（SG別） SG-A: 学生文化ハウス SG-B: ベトナム国家大学ホーチミン市人文社会科学大学 SG-C: ホーチミン市師範大学 SG-D: サイゴン・ツーリスト社 SG-E: ホーチミン市工科教育大学 SG-F: ホーチミン市交通局 SG-G: グエン・ティ・ミン・カイ高等学校、3区ホーチミン共産青年同盟 SG-H: トゥイチュエー新聞 SG-I: 2区ホーチミン共産青年同盟 SG-J: アオザイ博物館、9区ホーチミン共産青年同盟 SG-K: ホーチミン市工科大学	
	14:00-15:00	ホームステイ・マッチング（於 ホーチミン市ミーティングホール）	
	18:00-20:00	<管理官、NL> Mr. Nguyen Viet Que Sonホーチミン共産青年同盟ホーチミン市委員会副書記官・ホーチミン市学生連盟会長主催夕食会 ・ 記念品交換	
	12月4日 (火)		<PY> ～終日ホームステイ～
		9:00-9:45	<管理官、NL> ホーチミン市人民委員会副委員長表敬訪問（於 ホーチミン市人民委員会庁舎） ・ Mr. Huynh Cach Mangホーチミン市人民委員会副委員長挨拶 ・ 記念品交換
		18:00-21:00	既参加青年のつどい（於 ドルフィンホール及びダイニングルーム）
12月5日 (水)	12:30-13:30	PYホームステイから帰船	
	14:00-15:00	船内公開	
	15:45-16:30	出港式（於 カトライ港） ・ Mr. Nguyen Viet Que Sonホーチミン共産青年同盟ホーチミン市委員会副書記官・ホーチミン市学生連盟会長挨拶 ・ PY代表(フィリピンYL)挨拶	
	17:00	出港	

6 解散式

12月12日18時から、にっぽん丸船内ドルフィンホールにて解散式を行った。

始めに、福田正信内閣府青年国際交流担当室長から各国NLに感謝状を授与した。続いてPYの代表として各国のYLに参加証書を授与した。その後、福田室長から

挨拶があり、続いてPY代表としてタイYL及びベトナムYLが挨拶をした。

その後に予定されていた解散交歓会は、インフルエンザの発生により取りやめた。

7 下船・帰国

12月11日9時15分から、NL、PYに対して、下船手続きの説明を行った。次に、国別ミーティングの後、国ごとに設定した荷物置場に各自の荷物を移動した。

12月13日6時から、日本以外のPYは国別に順次ダイニングルームに集合し、それぞれバスで成田空港又は羽田空港に向かい、帰国した。

8 日本参加青年の帰国後研修

日本参加青年37名に対し、12月13日～14日の2日間、東京都渋谷区の国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて帰国後研修を行った。日本参加青年は事

業の振り返りを行うとともに、事業報告会の準備を進めた。また、船内で話し合い、帰国報告会で発表した事後活動プロジェクトについて、更に議論を深めた。